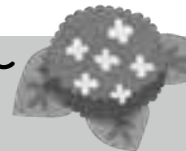


第21回

～ふる里の水と土に感謝して～
**大師の里・彦左衛門の
 あじさいまつり 開催**



多気町、水土里ネット立梅用水、多気町勢和地域資源保全・活用協議会が協賛



盛況な水土里ネットみえのブース

去る6月11日(日)にあじさいが咲く多気郡多気町丹生のふれあいの森を中心に「第21回大師の里・彦左衛門のあじさいまつり」が開催された。

「ふるさとの水と土に感謝して」をテーマに平成9年にスタートしたこのイベントも21回目を迎えた。

梅雨入りしているにも関わらず、時折り日差しの射す心地よい天候のなか、あじさいの開花が遅れ気味であったが、町内外から12,000人余りの来場者があり散策道は終日老若男女で賑わった。

オープニングセレモニーに続き、あじさい姫の紹介、恒例の田んぼの綱引き、田んぼのコンサートなどがいろいろな催しが繰り広げられた。

広い会場には70余りの出展ブースが設けられ、来場者は各ブースに立ち寄りながら、散策を楽しんだ。

特に途中手堀りのノミ跡が残るトンネルを抜ける立梅用水路の「ボート下り」では、開会式前から順番待ちの列ができ、大好評であった。

我が水土里ネットみえも会場入口付近にブースを設け、会場



花ポットを選ぶ参加者



綱引きで奮闘する我が水土里ネットみえ



スタンプを押すスタンプラリー参加者

内の散策道沿いに3ヶ所のポイント場所を設け、そこで各自スタンプを押し、本会の愛称「みどりねっとみえ」を完成させることで、本会愛称を啓発する「あじさいの小径スタンプラリー」を行った。800人余りの家族連れやカップルが参加し、汗を滂ませ、色とりどりのあじさいを眺めながら散策を楽しみ、指定されたポイントを回り、最後に本ブースに戻り、アンケートに答えてもらった。ほとんどの参加者から「楽しかった」との回答を得、好評であった。また、スタンプラリーに参加した方にもれなく花のポットがプレゼントされ、眼を凝らしながらポットを選び、満足そうにブースを後にした。

また、「田んぼの綱引き大会」では参加したチームの士気を高めようと本年度も引き続き本会より優勝チームから3位までのチームに副賞を準備し、栄誉を称えた。

試合は、19チームがエントリートーナメント方式で戦いに臨んだ。

会場となった田んぼの周りは、チームの応援団を含み大勢の観客で賑わい、各試合とも、全身泥だらけになりながら熱戦が繰り広げられ、大いに盛り上がった。

我が水土里ネットみえも上位を狙うぞとの強い意気込みでのもちと戦いに臨んだ。しかし、1回戦を突破したものの2回戦では完敗したが、観客からは惜しめない拍手で健闘を称えられていた。